

第10号



ニュース

ニュース

加盟団体

- ・ NTT西日本広島
- ・ サンフレッチェ広島
- ・ JTサンダース
- ・ 湧永製菓
- ・ 広島メイプルレッズ
- ・ 広島ガスバドミントン部
- ・ ソフトテニスクラブ
- ・ 中国電力陸上競技部
- ・ コカ・コーラウエスト
- ・ レッドスパ-広島ホッケー部
- ・ 広島東洋カープ



新スローガン決まる

2010シーズンのスローガンが決まった。「WE FIGHT TOGETHER 2010 走撃」で、攻撃のスタイルを貫くコンセプトを表現している。

リーグ戦やカップ戦、それにACLですべての人の総力を結集して、タイトルを目指す決意を込めた。

初の国際戦

サンフレッチェが初の国際公式戦 アジア・チャンピオンズリーグ(ACL)に出場することが決まった。J13位のG大阪が天皇杯を制したことで、4位のサンフレッチェが繰り上がりで出場権を得た。

ACLは32チームが4チームずつ8組に分かれホームアンドアウェイで1次リーグを戦い、各組上位2チームが決勝トーナメントに進む。サンフレッチェは山東魯能(中国)浦項(韓国)アデレード・ユナイテッド(オーストラリア)と同じH組に入る。

初戦は2月24日、ホームの広島ビッグアーチで山東魯能と対戦。4月27日の浦項戦まで6試合を戦う。決勝は11月12日または13日に予定され、優勝チームはクラブW杯(UAE)にアジア代表として出場する。



AFC CHAMPIONS LEAGUE

24日初戦 地元で山東魯能

ACL出場

《カープ 新入団選手一覧》

選手	年齢	位置	身長	体重	投打	出身
今村 猛	18	投手	182	85	右右	清峰高
堂林 翔太	18	内野	183	80	右右	中京大中京高
武内 久士	22	投手	185	95	右右	法大
庄司 隼人	18	内野	175	70	右左	常葉学園橋高
伊東 昂太	18	投手	186	80	左左	盛岡大付高
川口 盛外	24	投手	173	79	左左	王子製紙
◇						
永川 光浩	22	投手	189	78	左左	竜谷大
中村 亘佑	18	捕手	180	80	右右	横浜商大高

(注) 身長はcm、体重はkg、◇以下は育成選手

《ACL 試合日程》=サンフレッチェ関係分

2月24日	山東魯能	19:00	ビッグアーチ
3月10日	浦項	19:30	アウェイ
24日	アデレード	18:30	アウェイ
30日	アデレード	19:00	ビッグアーチ
4月13日	山東魯能	20:30	アウェイ
27日	浦項	19:00	ビッグアーチ



晴れ晴れ

新入団8選手

将来を背負って立つ精鋭が勢ぞろい。広島カープの育成選手を含む8人のお披露目が行われ、プロ野球生活への夢を話した。

ドラフト1位の今村投手ら6人、育成選手の永川投手の弟ら2人がひな壇に並び、緊張した表情で、それぞれが力強く決意を披露した。1日も早く1軍で活躍してくれることが期待される。

昨年、米大リーグのメッツでプレーした高橋建投手が復帰した。

高橋にはカープのほか他球団からの打診を断り、復帰を決めた。

高橋は14年間プレーしたカープからFA宣言し、メッツに移籍。5月には日本人最年長の40歳で大リーグデビューを飾った。28試合に登板、0勝1敗、防御率2.96の成績を残した。

高橋建
復帰

左から山崎、大崎、石川、西川、山岸の各選手



新加入選手5人が披露され、それぞれが活躍を誓った。新たに加わったのはG大阪から山崎、川崎からは山岸らで、山崎、山岸はACLに出場した経験があり、今季のサンフレッチェには頼もしい新戦力となった。また西川は先のアジア杯イエメン遠征にも加わるなど日本代表GK。ポジション争いが一段と激しくなりそうだ。

頼もしい顔顔

《サンフレッチェ 新加入選手一覧》

◆移籍	16MF	※山岸 智	26	181cm	77kg	川崎
	21GK	西川 周作	23	183cm	79kg	大分
	33FW	※山崎 雅人	28	174cm	68kg	G大阪
◆新人	23MF	石川 大徳	22	170cm	63kg	流通経大
	25MF	大崎 淳矢	18	170cm	62kg	ツルブス

(注) ポジションの前は背番号、※は期限付き移籍。末尾は前所属

ひろしま男子駅伝 《中国電力選手の成績》

佐藤 敦之※ (福島)	7区 (13.0km) 区間3位	37分37秒
岡本 直己 (広島)	3区 (8.5km) 区間4位	24分19秒
油谷 繁※ (山口)	7区 (13.0km) 区間28位	39分07秒
田中 宏樹※ (岡山)	7区 (13.0km) 区間29位	39分13秒

(注) ※はふるさと選手

佐藤あと一步 悔しい2位

24日に行われたひろしま男子駅伝に中国電力からは4選手が出場。佐藤敦之は福島のアンカーを務め、区間3位の好走で2位でテープを切った。広島の4位に貢献したのは岡本直己。18位でたすきを受け取る区間4位の力走で5位に順位を上げ入賞へお膳立てした。山口から出場の油谷は2つ順位を上げ、岡山から出た田中宏樹は1つ順位を下げた。

中国電力 日本人だけでは最高順位

全日本実業団対抗駅伝大会は1日、群馬県庁を発着点とする7区間、100kmのコースで行われ、中国電力は4時間52分26秒で4位に入り、前回の7位から躍進した。日本人選手だけのチームでは最高成績。4区佐藤、5区岡本が区間賞を獲得した。

《中国電力 個人成績》

1区	藤森 憲秀	35分34秒
2区	新井 広憲	23分30秒
3区	伊達 秀晃	39分09秒
4区※	佐藤 敦之	63分11秒
5区※	岡本 直己	46分48秒
6区	田中 宏樹	34分48秒
7区	尾崎 輝人	49分26秒

(注) ※は区間賞

ニコイヤー4位

4区佐藤 5区岡本区間賞

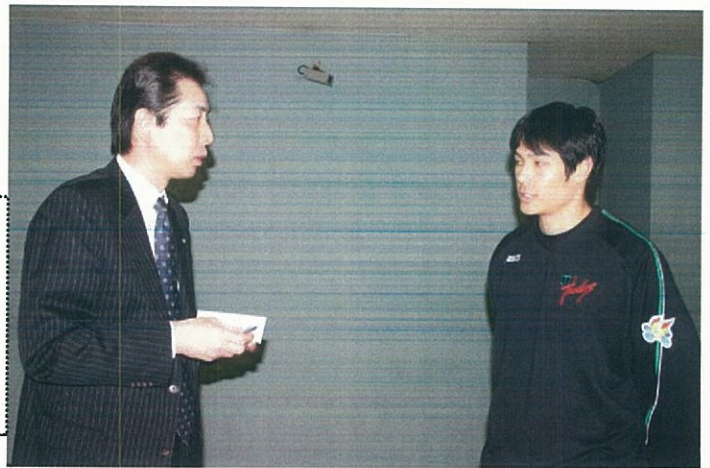
沖野は12位 防府マラソン

防府マラソンは昨年12月20日、山口県防府市で行われ、沖野剛久は2時間22分26秒で12位に入った。10kmの部に出場した藤原昌隆は30分40秒で9位に入った。



◆ トップスバレー学校 1期生

初のプレミア入り



栗生澤部長(左)からアドバイスを受ける算本翔昂

JTにトップスバレーボール学校1期生で、初のプレミアリーグプレーヤーが誕生した。入社が内定した東亜大4年のセッター算本翔昂(しょうご)。「早くコートに立ち、喜びを分かち合いたい」と夢を膨らませている。

バレー学校で指導した県協会の下村専務理事は「身長(198cm)があり、手が長いのは有利。すべてでスピードをつければ楽しみ」と評価する。

出身は江田島市で、中学からバレーを始めた。神辺旭高時代は県選抜として05年の岡山国体に出場、少年男子の部で優勝、06年のアジアジュニア選手権では準優勝した。

本人は「課題はまだまだあるが、宮下さん(JT)や山村さん(サントリー)を目標に頑張りたい」と目を輝かせている。



深津も

東海大セッター深津旭弘も内定した。183cmの長身を生かした高いトスアップとブロックが武器。

《プレミアリーグ男子勝敗表》

	勝	敗	勝率	セット率	得点率
① 堺	9	3	0.750	1.750	1.037
② パナソニック	9	3	0.750	1.722	1.092
③ 豊田合成	9	3	0.750	1.722	1.066
④ サントリー	8	4	0.667	1.318	1.067
⑤ 東レ	6	6	0.500	1.174	1.071
⑥ J T	4	8	0.333	0.654	0.931
⑦ 大分三好	2	10	0.167	0.438	0.854
⑧ FC東京	1	11	0.083	0.371	0.894

ゴメス故障が大誤算?

4勝8敗 6位に低迷

Vプレミアリーグは12試合を終わり、JTは度重なる連敗が響き、4勝8敗で6位と低迷している。

前回の得点王ゴメスを故障で欠く苦しい戦いを強いられており、11戦目には大分三好にも逆転負けするなど攻撃陣の不振が大きい。2月に呉である2連戦での巻き返しに期待したい。(成績は24日現在)

塔田健闘、3位 シングルス

国際ジュニア大会 U-21

第1回国際ジュニア大会は12月18日から4日間、三重県四日市ドームで開かれ、U-21の部に塔田が出場、シングルス、ダブルスに健闘した。シングルスは予選を1位で突破、決勝トーナメントは準決勝で敗れ3位となった。ダブルスは決勝トーナメント初戦で屈し、6位に終わった。大会には韓国、台湾、中国などのほか、欧州勢も参加した。

無念の準優勝 佐々木・大庭

東京インドア全日本大会は10日、東京体育館で行われ、女子の佐々木・大庭は決勝で惜敗、連覇はならなかった。男子の中堀・高川は準決勝で屈した。なお高川は17年連続18度目の出場だった。

◆全日本社会人・学生対抗インドア大会に出場 男子は中堀・高川、女子は佐々木・大庭が出場。男子は対抗戦で敗退したが、女子は3位に食い込んだ。

◆新認定選手 山本彩加が認定選手になった。9年ぶりに全日本社会人選抜で活躍した。女子は全日本選抜で活躍した。

《日本リーグ勝敗表》

男子	勝	分	敗	勝点
①大同特殊鋼	11	1	1	23
②大崎電気	8	1	4	17
③トヨタ車体	8	1	3	17
④トヨタ紡織	7	2	4	16
⑤湧永製薬	7	1	4	15
⑥豊田合成	2	2	8	6
⑦琉球コラソン	2	1	9	5
⑧北陸電力	0	1	12	1
女子	勝	分	敗	勝点
①オムロン	8	0	2	16
②北国銀行	8	0	2	16
③ソニー	8	0	2	16
④三重	3	0	7	6
⑤メイプル	3	0	7	6
⑥HC名古屋	0	0	10	0

メイプルレッズは3年連続プレーオフ進出を逃した。1敗も許されない状況でソニーセミコンダクタ九州と対戦、序盤からソニーに主導権を握られ完敗。オムロン、北国銀行が勝利し3位以内が消えた。

LEOLIC

湧永製薬が11年連続プレーオフ進出へ一歩前進した。大崎電気、トヨタ紡織に連勝、順位は5位ながら、残り2試合は下位チームだけに、よほどのこと当確ない。

P O へ光

3年連続 P O 逃す



* ロゴマークの意味 *

広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。

ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。